研究者：倉澤　　馨（所属：東京歯科大学 国際医療研究会）

研究題目：台湾の地域フィールドにおける歯科保健医療協力の実践

目　的：

日本の次世代の歯科保健・歯科医療を担う歯科学生が学生主体となって海外へ赴き，現地の歯科大学・歯学部や大学附属病院，歯科診療所，保健所などを実際に訪問・見学・協力を行うことにより，学生の国際交流活動や海外の歯科事情への関心を高め，日本と海外の歯科保健・歯科医療を比較し，その違いについて理解を深めることを本事業の目的とした。

対象および方法：

事業概要：

日本の歯科大学・歯学部の学生が，台湾の陽明大学およびその関連病院を訪問し，陽明大学の実習授業への参加および関連病院にて２日間の病院実習を行うことで，日本・台湾両国の歯科医療の違いについて理解を深めた。また，台湾宜蘭県の障害をもつ子どもたちに対する歯科保健の取り組みを見学し，実際に協力を体験することで，日本・台湾両国の障害者への歯科保健活動の実態を把握することができた。

参加者：

氏名（学年／職名）	団体名称／所属	本事業における役割
＜参加学生＞		
倉澤　馨　（4 年生）	東京歯科大学 国際医療研究会	事業実施責任者
浅野　一磨　（2 年生）	東京歯科大学 国際医療研究会	会計
池田　彩音　（1 年生）	東京歯科大学 国際医療研究会	
鯨井　桂子　（1 年生）	東京歯科大学 国際医療研究会	
松浦　葵　（1 年生）	東京歯科大学 国際医療研究会	
高橋　謙次郎（5 年生）	明海大学	
吉原　侑希　（3 年生）	明海大学	
尤　雅田　（3 年生）	明海大学	
＜教員＞		
眞木　吉信　（教授）	東京歯科大学 社会歯科学研究室	事業総責任者
	東京歯科大学 国際医療研究会部長	
Han Ya Tsai（陽明大学研修医）	東京歯科大学 国際医療研究会 OG	引率教員
＜国内待機学生＞		
小池　将人　（4 年生）	東京歯科大学 国際医療研究会	
上野　琴美　（3 年生）	東京歯科大学 国際医療研究会	
大和田　碧　（1 年生）	東京歯科大学 国際医療研究会	

期　間：2015 年 3 月 16 日（月）-3 月 22 日（日）
訪問国：中華民国（以下，台湾）
訪問先：国立陽明大學牙醫學院，台北栄民総醫院，陽明牙醫診所（台北市）国立陽明大學附設醫院（宜蘭県）
主　催：東京歯科大学　国際医療研究会
支　援：公益財団法人　富徳会
　　公益財団法人　ライオン歯科衛生研究所

結果および考察：

＜陽明大學訪問およびキャンパス，附属病院，関連病院見学＞

3 月 17 日（火）および 3 月 20 日（金）に台北栄民総醫院（陽明大學関連病院）を訪問し，3 月 18 日（水）に国立陽明大學牙醫學院キャンパスおよび陽明牙醫診所を訪問し，陽明大學にて 4 年生の補綴学の実技実習を見学した。3 月 19 日（木）に，国立陽明大學附設醫院（宜蘭県）を訪問した。

台北栄民総醫院（台北市）では，牙髄病科 Endodontics ，牙周病科 Periodontics，贋復牙科 Prosthodontics ，兒童牙科 Pediatric Dentistry の 4 科の臨床現場を体験した。台湾の歯科医療を実際に目にできる良い機会であった。実際の治療の手順や方法は日本と変わらないが，見学していて異なる点がいくつか見受けられた。

① 日本で言う歯科衛生士が存在しないということ。日本で言うところの歯科衛生士の業務は，現在のところ看護師が担っているということであった。今後，歯科衛生士の養成を始めていくとのことでしたが，法律や制度上の問題など解決しなくてはいけないことが多くあるという。

② 贋復牙科 Prosthodontics では，クラウンやブリッジなどはすべて自費治療であり，一番安い材料は銀合金を用いた補綴物であるという。確かに，他の科で見た患者の多くが銀合金の補綴物を装着していた。しかし，補綴治療がすべて自費治療であるため，補綴治療そのものをしていない患者も多く，そのほとんどの患者が欠損歯列のままであった。担当の先生に聞いたところ，歯を喪失するほとんどの原因が齲蝕によるものであり，齲蝕になっても炎症が進み，痛みが出るまでなかなか歯科医院に来ない患者がほとんどであるという。

③ 兒童牙科 Pediatric Dentistry では，6 歳以下の子どもはフッ化物歯面塗布を年 2 回のみ（障害をもつ子どもは年 3 回）保険治療で受けられる。しかし，乳歯齲蝕の治療に用いられる既製金属冠による修復は自費治療となっている。このため，歯冠修復が必要なほどの重度の子どもの齲蝕が放置されていることが最も心配であるという。

国立陽明大學附設醫院（宜蘭県）では，引率の Tsai 先生から宜蘭県の歯科医療について説明を受けた。宜蘭県は山がちの地域で，未だ多くの原住民が山間で暮らしている。そのため，齲蝕などの治療のために歯科を受診したくても，歯科医院にアクセスできない人が多いという。そのため，国立陽明大學附設醫院や宜蘭県の歯科医師会の先生方が順番に原住民の集落を訪問し，歯科治療を行っている。また，原住民の小中学校の保健室にはデンタルチェアーのあるところもあり，齲蝕にならないための活動などにも力を入れているという。Tsai 先生から説明を受けたのち，建造中の障害をもつ人のための治療室を見学した。宜蘭県では現在 special needs dentistry

の需要が高まっており，障害をもつ人の歯科の受診件数が，一昨年約700件であったのに対して，昨年は1800人にまで急増した。そのことを受けて急遽，障害をもつ人のための治療室の建造を始めたということであった。また，障害をもつ人の歯科治療で必要になることの多い静脈鎮静や全身麻酔は，歯科医師ではなく麻酔科の医師によって行われている。日本では，当たり前に歯科医師が歯科麻酔を行っているが，台湾では歯科麻酔を実施できる歯科医師がいまだに少ないため，麻酔科の医師に依頼しているという。日本の歯科大学は，海外協力の１つとして，いままで台湾での歯科麻酔普及に大いに貢献しているが，これからも台湾への歯科医療における協力を続けていくことが大切であるし，もっと多くの歯科医師の参加が望まれる。

＜宜蘭県における障害をもつ子どもたちへの歯科保健活動見学・協力＞

3月19日（木）に宜蘭県にて開催された特殊需求學生口腔衛生潔牙競賽Special Needs Students “Tooth Brushing” Contest（以下，“Tooth Brushing” Contest）を見学し，実際に協力を体験した。宜蘭県では，毎年一回“Tooth Brushing” Contestを開催し，障害をもつ子どもの口腔ケアについての認知度を上げるための活動をしている。“Tooth Brushing” Contestは，宜蘭県の歯科医師会や宜蘭県ロータリークラブなどの共催で開催され，宜蘭県の幼稚園，小学校，中学校に通う障害をもつ子どもたちおよそ300人が，障害の種類や程度に関わらず参加した。“Tooth Brushing” Contestでは，歯磨きの仕方や磨き残しなどの項目に従って歯科医師会に所属している歯科医師や陽明大学の先生，研修医などによって評価され，なかでも評価の高い子どもは表彰状が授与された。

“Tooth Brushing” Contestの流れは，

① 引率の先生や母親が，児童・生徒の口の周りの緊張をほぐすために口の周りをマッサージする
② オレオなどのクッキーを食べる
③ 自分で歯磨きできる子どもは自分で歯磨きするor 歯磨きができない子どもは先生や母親が歯磨きする
④ 染め出し液を用いて歯頸部を染色し，洗口する
⑤ 前歯－第一小臼歯までの頬舌側歯頸部に残った染色液の範囲を評価する
⑥ 評価後，歯科医師によるフィードバックを行う

評価は，歯ブラシの持ち方やブラッシング方法，歯頸部の染まった範囲だけでなく，先生や母親の歯磨きの仕方なども評価の対象であった。

台湾では，未だに子どもの齲蝕有病率が高いという。特に，障害をもつ子どもは日常の何気ない生活にも時間や手間がかかってしまい，歯磨きまでは手が回らず，特に齲蝕有病率が高いのが現実である。そのために，宜蘭県の歯科医師会が地域に働きかけ，障害をもつ子どもたちの齲蝕有病率を下げるためのキャンペーンの一環が，この“Tooth Brushing” Contestである。障害をもつ子どもだけでなく，その子どもの親やその子どもが通う学校の先生，ひいては地域の人たちにも歯磨きの大切さを知ってもらうことで，障害をもつ子どもたちの齲蝕有病率を下げるだけでなく，地域の齲蝕有病率を下げることにもつながるのではないかと思った。

また，歯科医師が障害をもつ子どもの自立支援に積極的に関わることができる方法があるということも知った。

口の周りのマッサージ

歯磨きの仕方を評価

母親による歯磨きを評価

看護師による染め出し

歯科医師による磨き残し評価

陽明大學附設醫院の先生たちと

成果発表の予定：

2015 年 5 月	報告書	第 15 次海外スタディツアー台湾事業報告書発行
7 月	口頭発表	歯科保健医療国際協力協議会（JAICOH）にて
10 月	展示・発表	東歯祭（東京歯科大学文化祭）にて